

徒然なるままに…51

—全体授業研④…人々の生きざまから学ぶ授業ストーリー—



平成28年10月11日
白鳥小学校 研修部

はじめに

ここ数日で、急に秋めいてきました。早いもので、今日から後期です。後期は、たくさんの行事が目白押しですが、子どもたちが大きく成長する時期でもあります。よりよい授業や取組を提供して、私たちにとっても、子どもたちにとっても、「実りの秋」にしたいと思います。



さて、今回の全体授業研は、4年生の提案でした。年度当初から、「平和大通り」と決め、着実に授業づくりを進めてこられました。何より、教材研究を通して、復興を目指して生きた広島の人々の姿に感動し、学びを得られたのは、授業者のお二人ではないでしょうか。これが授業研究の醍醐味だと改めて思いました。お疲れ様でした。

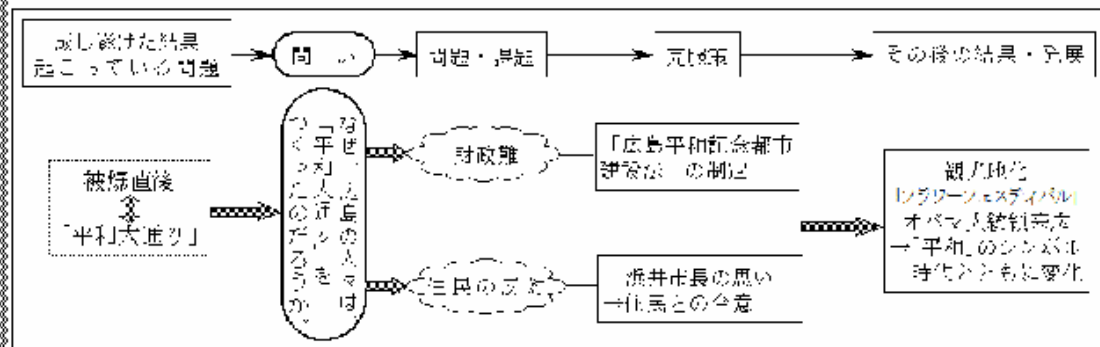
協議会では、肯定側・否定側に分かれ、ディベート風に授業検討をお願いしました。無理難題に対して、快く受け入れてくださり、ありがとうございました。おかげで、活発で有意義な会となりました。

今回は、今回の授業を手掛かりに、授業展開の「ストーリー」を切り口に、人々の生きざまから学ぶ授業について考えてみたいと思います。

1 「開発單元」におけるストーリー展開とは

今回の授業は、「平和大通り」の建設を取り上げ、広島が復興し、街づくりを進めていく人々の姿から、工夫や努力を学ぶことがねらいの、「郷土の開発」の單元でした。小原先生がよくおっしゃる「プロジェクトX」型の授業です。社会科では、このような授業構成をすることがよくあります。なぜなら、何かの問題やプロジェクトを克服することを通して、社会ができ上がり、そこに人々の生きざまと問題解決の知恵があるからです。では、「プロジェクトX」型授業は、どのようなストーリーで展開すればいいのでしょうか。今回の單元を例に述べてみましょう。

まず、成し遂げた結果や起きている問題を提示して、問いを立てます。本單元では、



[資料1：「広島市民の夢と志」の單元展開]

「平和大通り」が建設される前と後の様子を比べ、「なぜ、広島の人々は、『平和大通り』をつくったのだろうか。」という問いを設定します。

次に、成し遂げる上で生じる課題や起こっている問題の原因と、その克服策を明らかにしていきます。本単元では、「財政難」と「住民の反対」という課題を「広島平和記念都市建設法」の制定と浜井広島市長の訴えによる住民との合意によって克服したことを明らかにします。その際、事実を羅列するのではなく、人々が克服していくストーリーに載せて授業展開することによって、子どもが追体験的に理解できるようにする必要があります。このプロセスを通して、人々の努力や知恵を学び、思いや願いに共感することができるのです。



そして、取り上げたプロジェクトのその後の結果や発展について考えていきます。本単元では、観光地化、広島カープの優勝パレード、「フラワーフェスティバル」、オバマ大統領来広とその経緯から、人々は、時代の流れとともに意味付けを変化させながらも(流行)、「平和大通り」を「平和のシンボル」として受け継いでいること(不易)を理解します。

ここまで述べたストーリーを図示すると、前頁の[資料1]のようになるでしょう。

協議会で、「広島平和記念都市建設法」制定の経緯については、取り上げない方がすっきりするという指摘がありました。確かに、「平和大通り」を建設するためだけにこの法律を制定したわけではありません。しかし、「プロジェクト×」型授業のストーリーには、問題とそれを克服する人々の姿が必要なのではないのでしょうか。克服するプロセスにこそ、人々の知恵と努力があり、子どもたちは、そこに感動するのではないのでしょうか。ここに、社会科で人を取り上げる意義があるのだと思います。



2 問いに迫る着目点の設定と授業展開

本時について、子どもの結論がぼやけてしまったという反省が挙げられていました。これは、浜井市長の言葉から、反対住民を納得させる考えが明確にされなかったということです。この原因は、問いに迫る着目点を明確にして授業展開されなかったことが考えられます。

前時の学習内容である、日々の生活の向上を求めて反対する住民がいたことを受けて、「浜井市長は、反対住民を納得させるために、何を訴えたのだろうか。」という問いを設定しました。この問いに迫るには、「都市化」と「平和都市づくり」という二つの着目点が必要となります。したがって、この2点をはっきりと分けて追究する必要があったと考えられます。

まず、資料を読み取った子どもから、「将来役に立つ」や「ゆとりのある街づくり」という意見が挙げられました。そこで、「将来、『平和大通り』がどのように役に立つのだろうか。」「何のために、『ゆとり』が必要なのだろうか。」と問うたり、現在の「平和大通り」の様子や、場合によっては、名古屋市久屋通りなどの様子を示したりして、現在の大きな幹線道路が果たしている機能から、「都市化した街づくり」を目指していた

ことに気付くようにします。

その上で、『『平和大通り』は、これだけだろうか。もっと別の意味があったのではないだろうか。』と問い、「平和宣言」を中心に、平和を発信する「平和都市づくり」をも目指していたことに気付く展開になるでしょう。

さらに、「浜井市長の思いは、広島の人々に通じたのだろうか。」と問い、次時の「供木運動」へとつなぎます。

問いに迫る着目点は、「学び合いシート」の「学び合いの場」で設定するものです。着目点は、単元内の本時の位置付けと本時のねらいに基づいて、どこを切り口にして問



いに迫るのかを考えて設定することになります。着目点が明確化されれば、子どもの思考も、考えた結論も焦点化されることになります。これは、子どもの思考を仕組む上で非常に大事なことです。今一度、本校研究推進計画や研究紀要を一読いただければと思います。

おわりにー子どもが考えをつなぎ、練り上げる授業を！

本校の「学び合い」のある授業とは、子どもが考えをつなぎ、練り上げるというイメージです。先生方の学級の「学び合い」の様子は、いかがでしょうか。

4年生の子どもたちの授業で印象的だったのは、子どもが相互に考えをつなごうとする意識です。日々の授業における「つないでごらん。」という先生の導きの成果ではないでしょうか。

しかし、このような授業を展開するのは、一朝一夕にはいきません。日々の指導と子どもの授業をつくる力の訓練が不可欠です。そこで、次のように進めてはいかがでしょうか。

まず、子どもの発言について問い直すなどして、授業者が子どもの考えをつなぐことです。これによって、子どもは、他の意見に対して、どのような発言をすれば考えがつながるのかを学習することになります。偶然つながったときは、どのような発言がどの意見とどうつながったのかを説明することも必要でしょう。

次に、①他の意見と比較する、②他の意見を言い換えたり、違いを示したりする、③他の意見の続きを言う(付け加える)、④他の意見に同意したり、反論したりするというように、つなぎ方を提示して発言するようにしたり、スモールステップで目標設定して、レベルアップするように促したりします。

さらに、「言い換えます。」、「〇〇さんの意見に、反対意見があります。」などというように、発言する前に、自分の意見の主旨を告げて発言し合えるようにします。これができるようになれば、学習を進めるために必要な意見を判断して発言したり、他の子どもを指名したりすることができるようになります。

「学び合い」のある授業は、子どもの発言をつなぐことによって、比較・因果・関連などの思考を促し、いくつかの考えから見えてくること、いえることへと、子どもが主体的に認識を深めたり、広げたり、意味付けたりすることができると考えられます。今後も、学校全体で取り組んでいきたいと思えます。

